

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ園立ててく2

国立市立国立第七小学校

平成26年6月26日 NO.27 (127)

花ちゃん 「オー君。このごろ学校のあちこちに花壇（かだん）ができてよかったね。」

オー君 「そうだね。体育館（たいいくかん）のところは、6年生がたがやして、
2年生がヒマワリを、1年生がコスモスを植（う）えたんだよね。」

花ちゃん 「1年生のお教室の前も、雑草（ざっそう）ばかりだったけど、ヒマワリと
コスモスになったわ。お花が咲（さ）くのが楽しみね。」

オー君 「北門のところにも、ヒマワリとコスモスがあるけど、今日の朝、黄色くて、
でっかい花を見つけたんだ。」

花ちゃん 「見た見た！私も見た。」

モンタ博士 「二人ともよく気がついたね。それじゃ、みんなで見に行こうか。」

花ちゃん 「うわあー！やっぱり大きな花ですね！」

オー君 「クンクン、クンクン、におうね、このお花。」

花ちゃん 「この花、何ていう名前なの。」

モンタ博士 「これはね、『オオマツヨイグサ』というんだよ。それから月見草（つきみそう）
ともいうね。」

花ちゃん 「どうして、この名前になったの。」

モンタ博士 「オオとは大きいという意味（いみ）だね。待（ま）つ宵（よい）の宵とは、
夜という意味なんだ。夜を待つようにして花をさかせるということなんだ。」

花ちゃん 「どうして、こんなににおうんですか。」

モンタ博士 「どうしてだろう・・・考えてごらん。」

オー君 「花は、虫たちによく見えるように、きれいな色をさかせるんだよね。でも、
夜だと、その色が見えない・・・。あ！そうか。色かわりににおいで虫を
よびよせるんだ。」

モンタ博士 「その通り、ピンポン。夜に花をさかせるものは、強いにおいを出すものが
多いね。それから、暗くても目立つように白や黄色の花が多いんだよ。」



オオマツヨイグサのつづやき

私は、明治時代に日本にやってきた帰化植物です。宵待草（よいまちぐさ）とか、月見草（つきみそう）とかよばれますが、正しい名前は、オオマツヨイグサといいます。私の名前を一躍有名にしたのは、太宰治（だざいおさむ）と竹久夢二（たけひさゆめじ）という人です。

太宰治の「富岳百景」の中に、「富士には月見草がよくにあう」という一節があるそうです。また、竹久夢二の「宵待草」の歌詞に「♪待てど暮らせど来ぬ人の宵待草のやるせなさ♪」とあります。お二人に、この場をお借りし心より感謝申し上げます。